

益富地学会館のスタッフが制作に参加した新書が2冊発行されました。

日本鉱物科学会監修の『日本の国石「ひすい」』と『鉱物 —石への探究がもたらす文明と文化の発展—』です。これらの本は、益富地学会館では通信販売で取り扱っています。メールやFAX、電話でお問い合わせください。送料は1冊につき100円です。

(ご注文は、 [info@masutomi.or.jp](mailto:info@masutomi.or.jp) FAX 075-441-6897 電話 075-441-3280 へ)

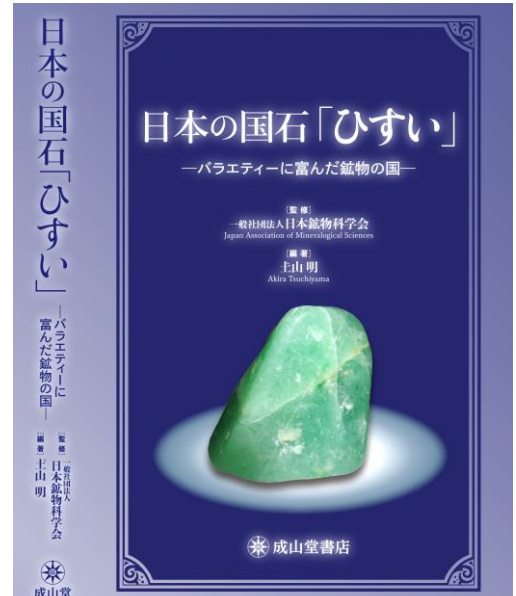
## ★「ひすい」ってどんな石？

その美しさから鉱物学・岩石学としての知識、勾玉や宝飾品に象徴される古くからの利用、日本人との関わりまで、「ひすい」の魅力について存分に語る。

# 日本の国石「ひすい」

## —バラエティーに富んだ鉱物の国—

一般社団法人 日本鉱物科学会 監修／土山 明 編著  
A5判・240頁(フルカラー)・定価 本体3,000円(税別)  
ISBN978-4-425-95621-0 C1044



### <著者紹介> 敬称略・順不同

- 1章、2章、3章：土山 明 (元京都大学)
- 4章：宮島 宏 (糸魚川フォッサマグナミュージアム)、辻森 樹 (東北大学)
- 5章：下林典正 (京都大学)、長瀬敏郎 (東北大学)、今井裕之 (金石造形作家)  
豊 遙秋 (元産業技術総合研究所)、坂野靖行 (産業技術総合研究所)  
土谷信高 (岩手大学)、石橋 隆 (益富地学会館)
- 6章：鈴木正哉 (産業技術総合研究所)
- 7章：西本昌司 (名古屋市科学館)



### <目次>

#### 1章 日本の「国石」を決める

「国石」とは？／「国石」は「水晶」であるとの説／なぜ「国石」を選定するのか？／「国石」の条件／選定方法 ほか

#### 2章 「石」ってなんだろう？

「石」とは／「鉱物」と「岩石」の違い／「鉱物」について／「岩石」について ほか

#### 3章 「鉱物科学」とは？

地球の歴史を探るワンダーな学問！？／地球と宇宙の声を聴く／「石」を採集する／飛んできた石を拾う ほか

#### 4章 日本の国石「ひすい」

ひすいはなぜ国石になれたのか／ひすいの基礎知識／宝石としてのひすい／ひすいの鉱物学・岩石学／ひすいと日本人／ひすい再発見の不思議／ひすいの保護と活用 ほか

#### 5章 バラエティーに富む「国石」候補たち

水晶／輝安鉱／自然金／花崗岩／桜石／トパーズ／玄武岩／黒曜岩／讃岐岩／無人岩 ほか

#### 6章 生活を支える「鉱物」とチャレンジする「鉱物科学」

昔から利用されていた鉱物と岩石／身近な鉱物／日本の鉱物資源／巨大災害と地球環境問題

#### 7章 「鉱物」を見てみよう！

石で楽しむビーチ／石で楽しむ川／石で楽しむハイキング／石で楽しむ街歩き／石で楽しむ博物館

# 『 鉱物 —石への探究がもたらす文明と文化の発展— 』

執筆：朝倉顯爾・石橋隆・伊藤謙・佐々木晶・澤田操・土山明・寺田健太郎・  
橋爪節也・半田直人・宮島宏

大阪大学出版会、A4判、98総頁（カラー82頁）定価：2400円（税別）（送料別途100円）

益富地学会館と大阪大学総合学術博物館が協力して制作した書籍が発行されます。大阪大学総合学術博物館で2018年に開催された特別展『The Mineral World —人と鉱物のつむぐ物語—』の関連書籍です。益富地学会館のスタッフである石橋隆（研究員）、澤田操（運営委員）、朝倉顯爾（専門員）が制作に参加し、益富地学会館主催の『石ふしぎ大発見展』でこれまでに開催した特別展の内容についても含まれています。

大阪大学総合学術博物館叢書 16

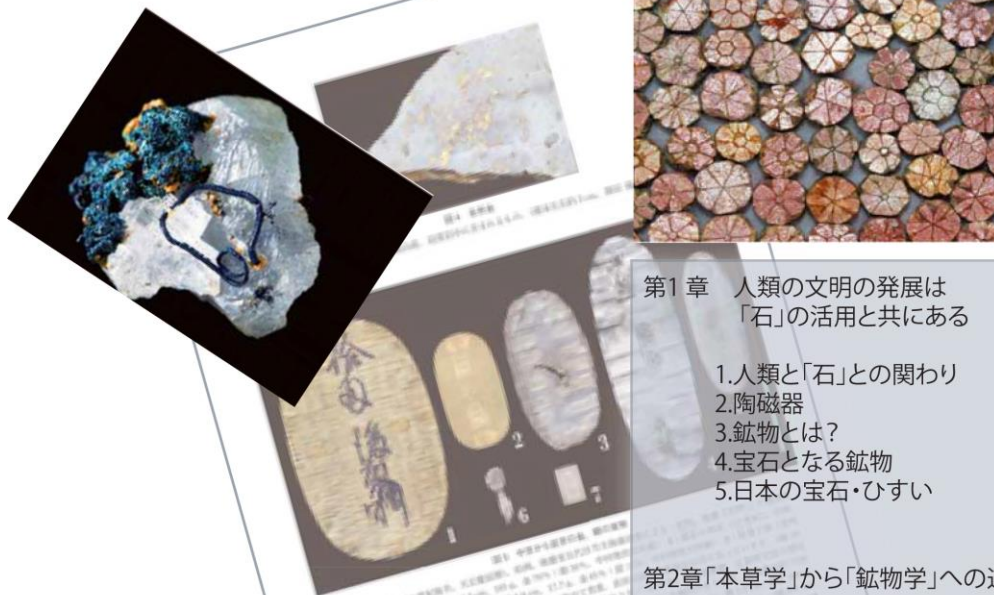
## 鉱物 石への探究がもたらす文明と文化の発展

石橋 隆、澤田 操、伊藤 謙 （編）

益富地学会館 益富地学会館 大阪大学総合学術博物館

A4判・並製・98頁（カラー80頁）本体2,400円 ISBN978-4-87259-526-0 C1344

眺めていたい美しい宝石類、金銀銅、鉄はもちろん、  
薬になる石など、人々がどんな石に、どうやって興味  
を寄せたことで文明と文化が変わってきたのか。



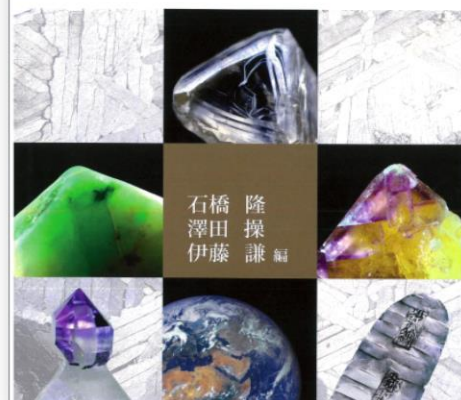
豊富な石の写真と図版を集めた98頁（カラー80頁）で紹介する図録。宇宙の鉱物、隕石、小惑星「イトカワ」の研究も紹介。好評を得た大阪大学総合学術博物館第12回特別展「The Mineral World—人と鉱物のつむぐ物語」の関連書籍。

大阪大学出版会新刊書

大阪大学総合学術博物館叢書 16

## 鉱物

—石への探究がもたらす文明と文化の発展—



### 第1章 人類の文明の発展は「石」の活用と共にある

1. 人類と「石」との関わり
2. 陶磁器
3. 鉱物とは？
4. 宝石となる鉱物
5. 日本の宝石・ひすい

### 第2章「本草学」から「鉱物学」への道

1. 「本草学」に遡る日本の鉱物学
2. 石の薬「石薬」
3. 東西の本草学者と「石」
4. 本草学から奇石趣味へ
5. 近代日本の鉱物学の黎明

### 第3章 日本の鉱業 —近世の金・銀・銅山—

1. 近世における日本の鉱業
2. 石見銀山産の江戸時代の鉱石

### 第4章 標本の歴史をひもとく

1. 標本の歴史をひもとく
2. 「ラベル」からたどる
3. 鉱物標本のルーツ
4. 地域に密着した鉱物標本 —大阪府の鉱物—
5. 大阪大学ゆかりの研究者と鉱物

### 第5章 「宇宙の石」と「地球の石」

1. 隕石
2. 南極の氷原は隕石の宝庫
3. 地球の石 「はやぶさ」の小惑星探査

付記 大阪府の「県石」について